

響

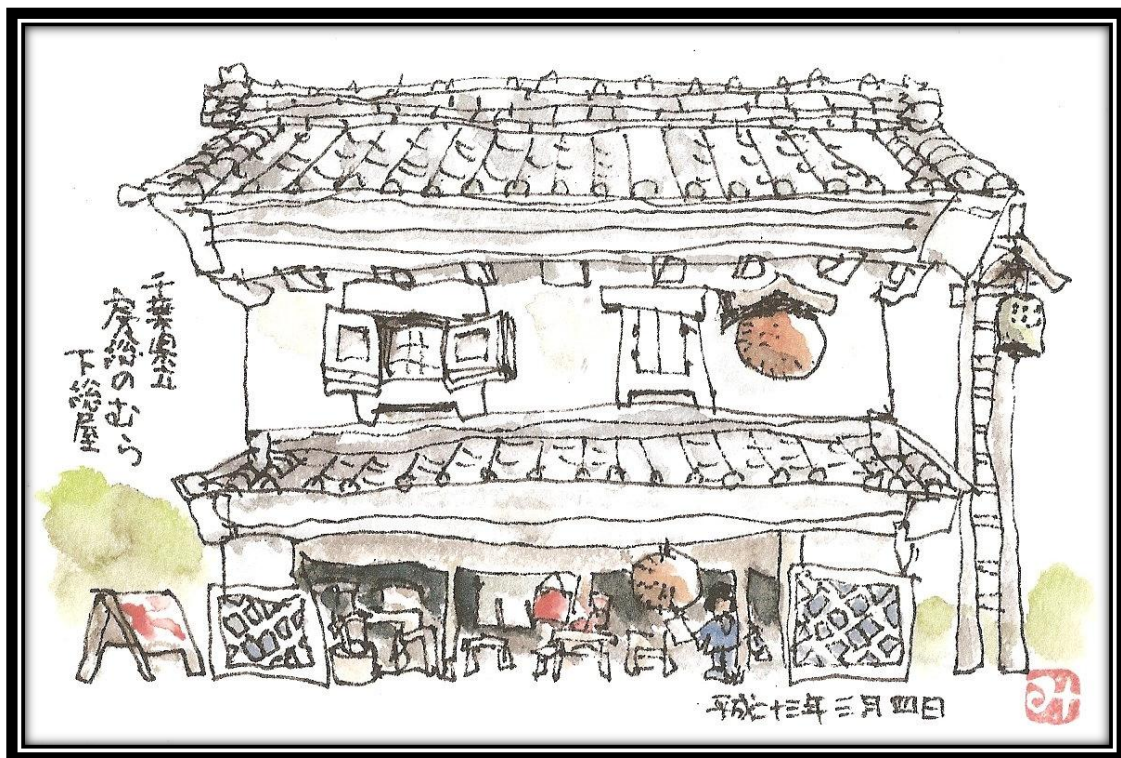
ひびき

真宗大谷派 道誠寺報

No.28

2011年3月17日 発行

東北地方太平洋沖地震で被災された皆さまに
衷心よりお見舞い申し上げます。



絵 百田 稔さん

行事のお知らせ(4月、5月)

行事の報告(1月、2月)



今、いのちがあなたを生きている

真のよりどころを
求めて

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

4 月

行事のお知らせ

10日
(日)

- ・ 日曜法話会
- ・ 14時～
- ・ 講師 市野 慈敬
当山 住職

14日
(木)

- にもくかい
- ・ 二木会
- ・ 14時～

28日
(木)

- ・ 書道教室 写経
- ・ 15時～ 青山 美智子 師
- ・ 同朋会 どうほうかい
- ・ 17時～ 遠藤 智恭 師
埼玉組 得信寺 衆徒

5 月

12日
(木)

- ・ 二木会
- ・ 14時～

※5月の書道教室・写経・同朋会は、
宗祖親鸞聖人750回御遠忌団体参拝のため、
お休みになります。ご注意ください。

上記の行事はすべて会費
ありません。



「二木会」は門徒さんの親
睦を深める楽しい会です。
初めての方でもお気軽に♪

「同朋会」は『正信偈』を
皆でお勤めした後、真宗の
教えに遇う大切な場です。

電車を御利用の方は、市
川大野駅まで車で送迎致し
ますので、お寺に電話御願
い致します。

(TEL) 047-337-5305

行事の報告

1月

27日(木)

「書道教室」「写経」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では

公開しません。

八名参加

今年から、「写経」に『仏説阿弥陀経』が加わりました。お寺でたまには写経してみませんか？

どうほうかい

「同朋会」

同朋会 参加者

※ホームページ上では

公開しません。

十八名参加

講師 勝尾 当知



勝尾 当知 師

一月の同朋会は、松戸市にある恵光寺の勝尾 当知住職を講師としてお迎え致しました。

先日のニュースで、宮崎県で鳥インフルエンザの感染が確認されたという事で多くの鳥が殺処分されたと報道されました。

そのことから連想したのですが、ドイツのアウシュヴィッツで多くのユダヤ人が殺されたことを思い出しました。

そのような自己中心なことをしでかす人間というのは、罪深く、またある場合に

は、私の知らない間に、大きな罪をつくっていくことがある、そのような存在であるわけです。私たち人間、一人ひとり、とりがそういう現実の姿というのをよくよく考えてみる、なければなりませんね。

『歎異抄』第二章には、関東の門弟たちが様々な問題を抱えながら、十余か国を歩いて、親鸞聖人を訪ねてきたことが書かれています。

その様々な問題というのは、「往生極楽のみちをといきかんがため」と、「往生極楽の道を問い聞く」、そのこと一つに集約されるのです。

ですから、その極楽浄土に往生する道を大事にしていかなければならないと思うのです。

現代では、一般的に信仰や宗教というと、病気が治りますように、健康になりますように、満足しますように、自分の都合の良いように自己中心的なものだと感じます。しかし、法然上人や親鸞聖人が言われる本当の仏道というのは、浄土に生まれるということです。つまり浄土の光に照らされて人生というものを生きていくことなのです。

私にとって浄土とはどういうところなのか、それを問うていくことが大事だと思います。

私たちは、先ほどの現代における宗教や信仰と同じように、真宗の念仏でさえも、称えていけば何か良いことが起こるのではないか、または心が落ち着くのではないかなどと、自分の身近なところで、都合の良いように期待して捉えてしまうのです。

しかし、だからといって、そのような念仏はいけないうわけではないのです。なぜならば、そのような自

分自身のあり方が顕かにな
つていくことに、すでに阿弥陀
如来の念仏の光に照らされ
ているということに気付くか
らです。

どうしても横道にそれてい
く身、どこまでも自己中心
的な考えを持つ身が顕か
になり、そのような身を抱え
ながら、浄土に往生させて
いただくのです。

南無阿弥陀仏というお念
仏には、私のはからいを超
え、仏さまの願いであり、仏
さまの行であります。

業縁に縛られて苦しみ、
あてにならない私のはからい



同朋会で聴聞の場

をたのみにして、何をよりど
ころにしていいのか分からない
まま一生を過ごしてしまう
ような、迷い続ける私たちに
こそ、南無阿弥陀仏のお念
仏がはたらきます。

善導大師の言葉である、

自身は現にじしん げん

これ罪悪生死の凡夫ざいあくしじょうじ ほんぶ

曠劫より已来こうごう このかた

常に没しつね もつ

常に流転してつね るてん

出離の縁あることなししゆつり えん

善導『観経疏』

とあるように、このような私
の思いも身体も全て捨てず
に摂取して下さるはたらき
が、南無阿弥陀仏のお念仏
であり、阿弥陀如来の摂取
不捨のはたらきであります。

2月

10日(木)

「二木会」
にもくかい

参加者

※ホームページ上では

公開しません。

七名参加

今月の二木会では、
じゅん菜池公園にお散歩
しに行きました♪
まだ寒いけれど、梅の花が
きれいに咲いていました。



13日(日)

「日曜法話会」

参加者

※ホームページ上では

公開しません。

二十名参加

講師 高田 昌磨

二月の日曜法話会では、
三条教区、新潟県にある本
空寺さんの衆徒、高田昌磨
先生を講師としてお迎えし、

高田 昌磨 師



「他力のおかげさまの人生」というテーマでお話していただきました。

真宗の教えでは「他力」とよく言われるが、この「他力」とは一体何であるのか、を問題にされました。

ひろさちやさんの猫と猿の子育てに譬えた説明をここで紹介します。

親と子が一緒に移動する場合を考えますと、猿は、子が母猿の背中に一生懸命つかんで振り落とされないう移動します。猫は、親猫の口に子猫をくわえて移動します。子猫は何もしません。

この場合、自分の力でがみつく猿が「自力」で、母猫に全ておまかせする猫は「他力」となります。

それならば、人間においておまかせする、「他力」ということはどういうことなのでしょうか。

癌で亡くなられた鈴木章子さんの詩を見ますと、癌を

告知されるという境遇にあつて、ただ絶望の日々を送るのがその境遇によって変わってきたことがあらわれています。

鈴木章子さんのように、私という人間が絶望のどん底にあつた時、そこから、自身はどう救われていくのでしょうか。

それは、浄土真宗の、親鸞聖人の教えである「他力」、つまり「阿弥陀如来の本願力」によるものだったので。

今自分がいる境遇をプラスに転換させてくれるような、

心の奇跡が起こり、救われていくのです。

また、五木寛之さんが「森羅万象、全ての現象は全て「他力」ですよ」と言われていますが、私自身もそのように感じております。私がこの法話会に足を向けるのも、「他力」に動かされているものだと思うのです。

自分が自分自身で努力して、自分自身で生きているのではなく、全て、関係性のもとで生かされているんだと最近よく感じています。



法話中の様子



お赤飯とトン汁をいただきました

『二人三脚』

わたしの思慮分別では
どうにもならぬことは
おまかせしようと
選んでいましたら
みんな みんな
おかげさまとの
二人三脚でした

『癌』

癌は
私の見直し人生の
ヨーイ・ドンの Gun でした

私 今 スタートします
鈴木 章子

24日(木)

「書道教室」「写経」
「同朋会」

書道 写経 参加者

※ホームページ上では

公開しません。

七名参加

同朋会 参加者

※ホームページ上では

公開しません。

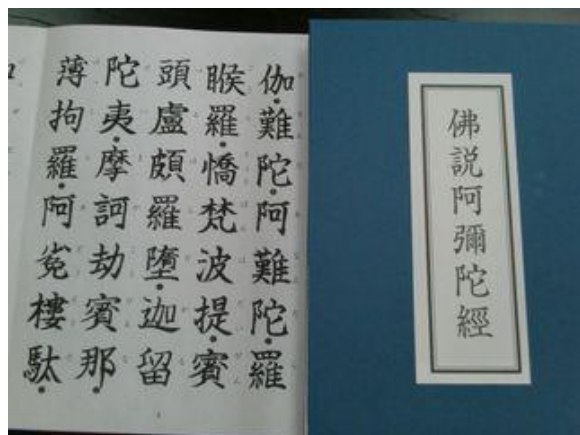
十四名参加

講師 清谷 真澄

書道教室、写経って、どんな感じなのかな？

筆、墨、紙、お手本、
道具、揃っています！
手ぶらでOK！

興味のある方は
お気軽に来てね☆



さて、二月の同朋会では、親鸞聖人七五〇回御遠忌が間近にひかえていることもあり、『正信偈』を離れ、「真宗の再興」をテーマにお話下さいました。

れんによしようじん
蓮如上人は、布教活動に力を入れ、現在は東西に分かれてしまいましたが、本願寺教団を興した方です。しかし、そのことを指して「真宗の再興」と言うのではありません。

蓮如上人は、現在お勤めで読まれる『正信偈』などを誰にでも読めるよう出版し、また民衆と同じ立場(平座)

に立って、仏法の寄り合い談合を勧められたのです。蓮如上人が大事にされたのは、「同朋」精神の回復、そして一人ひとりにおける「信心の再興」なのです。

当時、門徒(民衆)や坊さんの間では、「施物だのみ 坊主だのみ 物取り信心」と言われていたのです。

これは、坊さんは、多く布施をした門徒をよい弟子、信心の人であるとし、また門徒は、坊さんの力でたすかると思っていたという意味で、そのことを蓮如上人は誤りであると指摘されました。



場合の談合寄り

そして蓮如上人は

ぞうぎよう
「雑行をすてて

ごしやう
後生たすけたまへと

いっしん
一心に弥陀をたのため」

『蓮如上人御一代記聞書』

と、「施物」や「坊主」でもなく「弥陀を一心にたのため」とおっしゃられたのです。

◆敬弔

※ホームページ上では

公開しません。

生前のご功労を偲び、念仏合掌して哀悼の意を表します。

☆編集後記☆

◆三月十一日午後二時四十六分頃に、国内観測史上最大のM9.0の東北地方太平洋沖地震が起こり、被災地のみならず、世界中でパニック状態になっている。大地震、大津波により甚大な被害をもたらし、また福島原子力発電所では、メルトダウンという危険性も孕んでいて、予断を許さない状況である。

このような事態に陥ると、責任などの問題で、政府や東京電力に勤める方々に非難の声

が上がるのだが、私は「想定外」の事態に一生懸命取り組んでいく彼らの姿勢に目を向けなければならぬと思う。地震や津波などの自然の力は、いつでも人間の「想定内」に、人間の思い通りになる力ではないのだから。

ひとりでも多くの方々が救われることを願っています。

しゃんこうせい
(釋光生)

編集

真宗大谷派 道誠寺

〒272-0804

千葉県市川市南大野 1-26-31

TEL: 047-337-5305

FAX: 047-337-5306

URL: <http://douzyouzi.com>

住職 市野 慈敬 (釋慈敬)

副住職 釋光生